



独立行政法人国立成育医療研究センター五十嵐隆総長とともに

谷区の独立行政法人国立成育医療研究センターの総長兼理事長でいらつしやいます五十嵐隆先生を訪問いたしました。今回の訪問の目的の一つは本通信でも何度か申し上げていますが、来年の四月に開所いたします「イタル成城」のご挨拶もありました。複合施設（通所施設・短期入所・グループホームの3事業所が一つの建物の中にあります）で「イタル成城」は法人初の医療的ケアを本格的に開始する施設です。通所はもちろんのこと、短期入所、およびグループホームでも行います。目下、法人内でも医療的ケアを行う法人として、その責任を担うべく研修や見学などに余念がありません。医療的ケアの検討委員会もまもなく発

足るの予定です。本施設について蓬田施設長候補より五十嵐総長に説明させていただいたのち、谷山理事長から「医療的ケアの必要とな方々の受け入れは、法人にとって新たな挑戦であり、職員の知識や技術の向上のため成育医療研究センターの看護師や理学療法士の方々の業務見学をさせていただきたい」とお願い申し上げました。総長からは「快諾いただき、さらにまた、国立成育医療研究センターでも2016年1月に国内の公的病院では初の短期滞在ケア施設をオープンされることになるというお話を伺いました。総長によれば、重い病気を持つ子どもや家族が在宅でケアし育てることができる社会をめざすことが大切であるが、医療の進歩によ

り従来助からなかった命が助かるようになり、医療機器などを日常的に使用しないと生命の維持がむずかしいことが増えたそうです。親や家族の負担は大きく、レスパイトサービスの重要性が高まり、病院内に短期在宅ケア施設をつくることになったとのことでした。そしてぜひ「イタル成城」とも連携したいと力強いお言葉を賜りました。医師として、センター総長兼理事長として総長がお話になられた「生きる」とは「死」とは「医療とは」「ケアとは」などの言葉の持つ重みがあるため感じられ、これから始まる医療的ケアを実施していく私たちは身の引き締まる思いでした。国立成育医療研究センターも社会的ニーズに添えて立ち上がりました。私たちも同じ思いで挑戦し、がんばってまいります。

いたる通信 54 秋号

目次 contents
01 いたるセンター
02 あけぼの作業所 クローバー・マルコ
03 いたる地域ケアセンター PukuPuku
04 目黒本町福祉工房 阿佐谷福祉工房

いたる賛助会入会のご案内
「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費 105千円(何口でも可)
郵便振り込み 00110712892
339217346 事務局 山本まで

目黒本町福祉工房 生活介護事業部 佐野 央

昨年度後半、両事業部を超えた有志による職員が集まり、「ArtLifeProject」チームが自主的に発足しました。合言葉は「仕事も生活もArtしよう!」ここでは、工房内の美術活動時間で、ご利用者様の美術的記述やセンスの拡張を促し、そこから創造された作品を基に、統一された商品のブランド化を企画、新しい仕事の創造を目指そう、と話し合われました。



ご利用者様の描いたイラストをデザイン化

これらを踏まえて今年度、生活介護事業部向日葵グループでは、テーマや手法を絞り、繰り返し統一感のある絵画を制作することになり、ご利用者様のスキルと感覚の広がりを図りました。結果、彩も作風も個性豊かな作品が多数出まってきました。その中から就労継続事業部の担当者が商品としてデザイン性を持った作品を選出し、Tシャツとして商品化しました。それがこのコラボレーションTシャツです。ご利用者様の個性がいかなく発揮された商品として、本町まつりから販売開始予定。この商品を入り口として今後もコラボレーション作品を作り出していきます。



刷り上がったTシャツの出来栄に職員も大満足

阿佐谷福祉工房 施設長 佐藤 章

阿佐ヶ谷駅東側の高架下に「あるアンテナショップ」にぎやかな風。当工房で焼いたPukuPukuブランドの食パンをはじめ、当施設オリジナルラスク&クッキーや当法人他施設の商品を取りそろえ「食の安全・安心・安らぎ」をテーマに生活介護事業部出張所として営業しています。



JR 中央線・阿佐ヶ谷駅高架下で営業中です

以前より行なっていた店舗外販売では、HOYA様をはじめとする企業がノベルティグッズとしてご利用いただくなど、着実に地域に根差した活動を行っています。こうした店舗外販売では、法人内の商品だけでなく、他法人の商品を取り扱うなど福祉全体の工賃の底上げに貢献しています。店舗販売は、生活介護事業部のご利用者様も店員として接客等を行うよう少しずつなっています。近年リヤカーによる引き出しの拠点売り、地域イベントでの出張販売などを中心に販路拡大を行っていましたが、店舗販売が始まり、ギフトセット注文が増えてきています。写真だけでなく、実際に物を見たり、味わえたりすることによりその商品価値がわかり



「食の安全・安心」をモットーにした自主生産品

いたる広報委員
発行責任者=谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/平成26年10月1日
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。いたる広報委員まで。

あけぼの作業所

施設長 荻野 路子

個別ニーズに対応できる 事務所を目指して

「いたるセンター」イコール「知的障害」というイメージはありませんか？もちろんあけぼの作業所には、今も多くの知的障害のご利用者様が毎日、元気に作業所で活動されています。そして、今年から、障害者総合支援法の目的となつている、身体や精神に障害のある方もご利用いただけるようになります。今年には都立盲学校中等部の方の実習受け入

れを行いました。

学校の担当の先生と共に、封入・封緘等の仕事を体験されました。実習が終わり振り返りの席で体験された方から「仕事は難しかったけど、怖いことはなかった」と言われ、ご家族様、担当の先生、そして職員も安心しました。

今年も同校より実習の依頼をいただき、生活介護の職員を対象に、全盲の方の移動介

助や食事介助の方法の研修を行いました。個別のニーズに対応できるように、今後も利用者様から学びをいただき、成長したいと思っております。



職員同士で行ったクロックポジションの練習風景

いたる相談室

室長 渡邊 紀子

サービス等利用 計画の流れ

相談支援所との契約は、サービス利用のゴールではなくスタートとなります。

相談支援事業所と正式に契約を交わした後、聞き取りが行われます。サービスを受けるご本人やご家族、実際に支援をしている事業所の職員からも話を伺います。伺った話から相談員は計画（案）を作ります。それを再度、ご本人またはご家族と確認し、サインをいただきます。その書類が福祉事務所を通し杉並区の認定会議にかかり、決定を受け受給者証がお手元に届きます。

受給者証の記載通りの期間に合わせてモニタリングが行われ、サービスの利用状況が相談員から杉並区に報告され、必要があればサービスの変更も行います。

そして、受給者証の有効期限が切れる1か月前に、またお会いして再計画、更新を繰り返していきます。

すまいる高井戸

相談員 山崎 智子

つどい会の活動



メンバーの自主的な活動をサポートします

「つどい会」は、知的障害の方の当事者グループです。メンバーは杉並区内在住で、普段は企業や作業所などに通われています。月2回、杉並障害者福祉会館に集まり、話し合いで活動内容を決めたり、準備をしたりしています。

今年度の活動は、カラオケ大会、アートセラピー体験、神代植物公園への外出などです。

「つどい会」では、一緒に活動のサポートをしてくださるボランティアさんを募集しております。ご興味のある方はご連絡ください。(03-3333-1125/10)



ナスにネギ、大豆の収穫をお楽しみに

ベランダで育てた無農薬野菜を朝食に

マネージャー 影山 仁美

クローバーでは、この夏新しくミニ・ガーデンングを始めました。順調に収穫できたら、朝のお味噌汁に入れてご利用者様と皆で味わいたいと思ったからです。

備品や苗の購入と設置から日々の水やりはガーデニングの経験があるクローバーの職員が中心となって行っています。また、ご利用者様からのご希望があれば、職員と一緒に水やりをしてもらい、野菜

いたる地域ケアセンター 新事務所に移転しました

センター長 八巻 利子



いたる地域ケアセンターのエントランス

グループホームの非常勤職員さんはサポートウイズの支援員としての仕事もお願いし、サポートウイズのヘルパーさんがグループホームの生活支援員としての仕事をして頂く事も少しずつ始めています。(但し、契約が必要です。)

今後お互いの事業部で足りないところを補いつつ活性化した「地域ケアセンター」にしてまいりたいと思っております。

これからも一層のご支援をよろしくお願いいたします。

いたる地域ケアセンターの事務所が移転いたしました。天沼の荻窪北マンション104号のサポートウイズと305号のグループホーム本部と分かれて事業を行っていましたが、平成26年7月28日「いたる地域ケアセンター」としての新事務所がスタートいたしました。グループホームの職員やサポートウイズの職員が互いに協力し合いながらグループホーム、サポートウイズの利用者様を支えています。



ホームヘルパーさんとの連携も充実

パン工房 PUKUPUKU

統括リーダー 池田 史暢

念願叶った新規取引先の開拓



アメリカンエクスプレス本社の食堂にも納品

パン工房プクプクでは九月一日よりアメリカン・エクスプレス本社の食堂に毎週三回納品のお取引をスタート出来る事になりました。五年前のプクプクオープン時にお取引を希望し商談にお伺いしましたが叶わず、今回五年越しのお取引開始です。

これは障がい福祉の雑誌「コトノネ」の編集の方にご紹介頂いたフードコーディネーターの方がプクプクにご来店

SunMarche(さんまるしえ)

スーパーバイザー 鈴木 健

イベントで地域密着

さんまるしえでは地元のお客様への感謝の気持ちと交流を深めさせていただくため、様々なイベントを開催しています。

この夏休みには、小学生の「一日店舗スタッフ体験」を企画し、お店の仕事を体験していただきました。当日はタイムカードを押し、名札を付けての勤務をお願いし、一時間半の業務終了時には労働の対価として喫茶券の

入った給料袋を受け取る等の疑似体験をしてもらいました。おかげ様で大好評で、次の冬休みにも開催予定です。

この他、地元の中学校の記念祭での自主販売の商品提供や商店会のお祭り用のお菓子の提供をする一方、地元のイメージを活かした革製品の「さんまのしおり」は定番化しています。

今後は毎月実施している各施設毎のフェアの充実を図り、



小学生2名の一日スタッフ体験は大成功でした

お客様と施設のご利用者様との交流が促進される企画を進めてまいりたいと思っております。

～地元の方と共に～